

2017（平成 29）年度文化庁委託事業報告書
「被災地方言の保存・継承のための方言の記録と公開」

目 次

まえがき

事業の概要

第 1 部 宮城県気仙沼市方言の調査報告

調査の概要	小林 隆	6
語中/k//t/音の有声化.....	大山雄輔	9
アクセント規則	寺嶋大輔	18
非実現形式「(危なく) シタ」	津田智史	27
待遇の文末形式「(ラ)イン」	八巻千穂	37
接尾辞「ラヘン」	佐藤亜実	48
方言語彙「トゼン類」	八木澤亮	55
自由会話の特徴—高年層と若年層を対象として—	太田有紀	63
「擬似会話型面接調査」の試み	小林 隆	70

第 2 部 声で残す方言詩集『生きるっちゃー大震災を乗り越えてー』

.....	櫛引祐希子・方言を語り残そう会	81
-------	-----------------	----

まえがき

本書は、2017（平成 29）年度の文化庁委託事業「被災地における方言の活性化支援事業」のうち、東北大学方言研究センターが担当した「被災地方言の保存・継承のための方言の記録と公開」の報告書です。

当センターでは、震災発生直後から、被災地の方言をめぐるさまざまな問題に取り組んできました。その活動については、すでに次の 6 つの報告書に述べています。

『東日本大震災において危機的な状況が危惧される方言の実態に関する予備調査研究』（2011 年度文化庁委託事業報告書）

『東日本大震災において危機的な状況が危惧される方言の実態に関する調査研究（宮城県）』（2012 年度文化庁委託事業報告書）

『被災地方言の保存・継承のための方言会話の記録と公開』（2013 年度文化庁委託事業報告書）

『被災地方言の保存・継承のための方言会話の記録と公開 2』（2014 年度文化庁委託事業報告書）

『被災地方言の保存・継承のための方言会話の記録と公開 3』（2015 年度文化庁委託事業報告書）

『被災地方言の保存・継承のための方言会話の記録と公開 4』（2016 年度文化庁委託事業報告書）

今年度は、文化庁の事業方針「被災地域の方言の保存・継承の取組や方言の力を活用した復興の取組を支援することにより、被災地域の方言の再興及び地域コミュニティの再生に寄与する」ことを受け、気仙沼市における日常会話を踏まえた方言の記述と、名取市における市民団体の協力による方言資料の音声化に取り組みました。

今回もまた、現地の方々にはひとかたならぬお世話になりました。特に、話者のみなさまには地元の方言についていろいろと教えていただいたり、方言詩集の朗読に取り組んだりしていただきました。また、気仙沼市における調査では、このたびも気仙沼市教育委員会生涯学習課の手厚いご支援をいただくことができました。名取市における方言詩集の音声化では、「方言を語り残そう会」（代表：金岡律子氏）の全面的なご協力を得るとともに、追手門学院大学の櫛引祐希子先生にすべての面倒を見ていただくことができました。お世話になったみなさま方に心より感謝申し上げます。

私たちのこの取り組みが、震災の困難の中にある“ふるさと”の再生に寄与できることを願っています。また、この報告書が多くの方々の目にとまり、被災地の方言の将来について考えるひとつのきっかけとなることを期待します。

それにしても、こうした文化庁の事業はたいへん貴重です。方言は地域の文化の根底にあるにもかかわらず、被災地の方言についての取り組みは途に就いたばかりといってよい状態です。いまだに多くの地域の方言が、保存・継承の取り組みを必要としています。文化庁には、今後もこうした活動への支援を期待したいと思います。

2018 年 3 月 11 日

東北大学大学院文学研究科・
東北大学方言研究センター教授

小林 隆

【事業の概要】

1. 事業の目的

本書は、2017（平成 29）年度の文化庁委託事業「被災地における方言の活性化支援事業」のうち、東北大学方言研究センターが担当した「被災地方言の保存・継承のための方言の記録と公開」の報告書である。

宮城県沿岸部の住民は東日本大震災を契機に、方言が地域の貴重な文化であり、復興への精神的な支えであることを強く認識し、その保存・継承を望んでいる。しかし、当該地域の方言は、震災の影響により衰退に向けた速度を速めつつある。地域住民の願いである方言の保存・継承のためには、その地域の方言の精密な記録や音声での保存が必要である。そのような趣旨に立ち、被災地の方言を記録し公開する企画を行うことにする。

2. 企画の概要

(1) 気仙沼市における日常会話を踏まえた方言の記述

- ①宮城県内の方言区画を考慮し、北部の気仙沼市と、南部の名取市を具体的な対象地域とする。伝統方言の記録・継承のために、高年層を話者とする。
- ②気仙沼市では、昨年度まで取り組んできた日常会話の収録作業を踏まえ、臨地面接型の調査により、さまざまな角度から方言の記述を行う。

(2) 名取市における市民団体の協力による方言資料の音声化

- ③名取市では、櫛引祐希子氏（追手門学院大学経済学部講師）および市民団体「方言を語り残そう会」の協力のもとに、これまでこの会が作成してきた方言資料の音声化を行う。

(3) 東日本大震災と方言ネットでの公開

- ④上記②③の成果を報告書およびCDにまとめ、被災地の公共機関をはじめ方言の保存・継承に取り組む人や団体に配布する。
- ⑤上記④の内容を東北大学で運営するホームページ「東日本大震災と方言ネット」にも掲載し、利用の拡大を図る。

3. 実施体制

- 代表者 小林 隆（東北大学大学院文学研究科教授）
幹 事 小原雄次郎（東北大学大学院文学研究科大学院生）
佐藤亜実（東北大学大学院文学研究科大学院生）
協力者 櫛引祐希子（追手門学院大学経済学部講師）
金岡律子（名取市方言を語り残そう会代表）

4. 協力機関

- 気仙沼市教育委員会生涯学習課
方言を語り残そう会（名取市）